

自分の最期は自分で決める

～ 最期まで自分の意思を貫いたSさん・Kさん ～



香川県 特別養護老人ホームにお荘

社会福祉法人 仁尾福祉会 特別養護老人ホーム にお荘 概要

(平成5年開設)

介護老人福祉施設	定員 50名
地域密着型介護老人福祉施設	定員 20名
(介護予防)短期入所生活介護	定員 12名
通所介護・通所型サービス	定員 45名
居宅介護支援	

基本理念

～ あたりまえで ごくふつうの生活を
おくれるように支援します ～

～はじめに～

私たちは入居された時点で看取りが始まっていると考えています。

例え認知症であっても、その方の言葉からヒントを得て、ご本人の意思に添った日常生活や、最期を“どこで、どのように”迎えるのかを考えながら、私たち職員も共に生活させて頂いております。



平成25年度から施設での看取りをさせて頂くようになり、ご本人、ご家族、又、さまざまな職種間での話し合いや研修等を行って来ました。

始めは職員間で「もっとこうしたほうが良かったのでは?」「知識も少なく、ご家族に聞かれてもきちんとした返事ができなかった。」「ご家族に、どうお話ししたら良いかわからない。」等の意見がありました。少しずつ、「日ごろからご家族とコミュニケーションをとり、信頼関係を築いていこう。」「いざ看取りになってからでは何もできない。入居した時から、少しでもご本人の意思に添えるように、共に生活したい。」といったような意見が出るようになりました。今回の事例は、最期まで自分の意思をはっきりと伝えることができ、自分の最期を自分で決めることができ、私たちがご本人の思いに添えた気がします。



～目指すべき姿～

最期を迎える際、ご家族が“病院へ行くのか・どこで最期を迎えるのか”を考えるのではなく、ご本人が“どこで最期を迎えたいのか・どうしたいのか”を家族と共に考える事が大切だと思います。しかし、自分の意思を伝えるに苦しい方がたくさんいます。そういった方の意思をくみとり、代弁することができ、自宅で最期を迎えることが難しい中、“当施設で最期を過ごしたい”と思ってもらえるような施設でありたいと思います。

《あたりまえの生活》を考えた時、施設だからできないというのではなく、ご本人にとってのふつうとは何だろうと考える事が大切です。地域に出て行く、お風呂は毎日入る等、人それぞれふつうは違うと思います。ご本人の意思を聴き、寄り添い、家族にはなれないが、家族のかわりになれるような存在でありたいと思ひながら私たち職員も共に生活していきたいと思ひます。ご家族が不在で寂しい時、「あなたに、側にいてほしい。他の人ではいかなのや」と思われる職員を目指して…。

仁尾町で私たちと一緒に
生活しませんか



(事例1) 自分の意思で最期を迎えたSさん

地元で生まれ育ったSさん。知り合いの方もデイサービス等を利用しており、よく面会に来てくれていました。認知症はなく、「トイレに行きたい」や「横になりたい」等の自分の意思をしっかりと話してくれていました。少しずつ食事が低下し、詳しい検査はしていませんが、膵臓がんの可能性が高く、毎日主治医の診察を受けていました。食事はほとんど摂れていませんでしたが、点滴等延命の希望はありませんでした。また、病院への入院も希望せず、当施設で最期を迎えたいという思いがありました。常々自分の意思はお話されており、亡くなる数時間前までトイレに行きたいという思いに添うこともできました。遠方のご家族は「病院へ行ったほうが良いのでは?」「点滴をしたほうが。」と葛藤する場面もみられましたが、最後は本人の意思を尊重し、施設での看取りという事になりました。

自分の最期をどこで迎えたいか、最期まで自分の意思を貫いたSさん。最期はご家族の手をにぎりしめながら、息を引き取られました。



(事例2) 自分の生き方を持ったKさん



もともと、当施設のショートステイを利用しており、介護老人保健施設を経て当施設へ入居となりました。お饅頭や甘酒等の甘いものが好きで、息子さんが持ってこられたお菓子などを居室で食べられていました。食事が摂れないこともありましたが、好きな物は食べられており、本人にとっては良いのではないかと私たちがも考えていました。

横になる時間も増え、食事もほとんど食べられなくなった時、「〇〇店のうどんが食べたい。」と私たちと話をしていたことを思いだし、息子さんと一緒にうどんを食べに行こうという事で、計画を立て実現しました。

実際は一口ほどこか食べる事ができませんでしたが、いつも寡黙なご利用者がうどん屋へ行く道中で、「昔は病院の帰りに、よく肉うどんを食べていた。」「ここのおでんの卵がおいしい。」や「パチンコがしたいな。」等たくさんの事を話されました。今まで聞かれなかった事を聞くことができ、活き活きとした表情も見ることができました。それから10日後、息子さんに見守られながら、息を引き取られました。

玄関に飾るお花をいける



自らの活動でなく、他者・地域のための活動、役割のある生活で、活き活きとした生活がおくれるのではないのでしょうか? 「ありがとうございます」の言葉を添えて…。

海を見に行きたいなあ



昔からの馴染みのある場所へ行き、施設では見ることができない、表情や会話がみられます。そういう姿を見れるのが、私たちのやりがいです。

詳しくはこちら



ホームページ



Instagram



YouTubeチャンネル



Facebookチャンネル



LINEチャンネル

にお荘